

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

| | | | | | | | |
|----------------|---|---|--|---|------|---|---|
| 教科・科目 | 芸術・美術Ⅱ | 単位数 | 2 | 単位 | 履修学年 | 2 | 年 |
| 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題作品の制作を通して、ものを見るための感性を伸ばし、深く物事を観察する力や想像力を身につける。 ・的確にものの形や色を把握し表現する技術を習得し、創造的に表現することができる。 | | | | | | |
| 使用教材 | 【教科書】 高校美術2 (日本文教出版) | | | | | | |
| 評価の観点 ・評価規準 | 関心・意欲・態度 | 発想力・創意工夫 | 表現技術 | 知識・理解 | | | |
| | 課題作品のテーマに関心を持ち、テーマの内容を的確に把握して、美的な創作活動に積極的に取り組んでいる。 | 課題作品のテーマやその表現方法を芸術的な感性により、各自の世界を構築している。 | 課題作品の制作において、道具や材料を工夫しながら、自分の表現を実現している。 | 作品を鑑賞する態度と制作技法を理解し自己作品と比較検討ができる。 | | | |
| 評価方法 | <p>目標を踏まえ、美術Ⅱに対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「発想力・創意工夫」「表現技術」「知識・理解」は、提出作品を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況(完成度、技術、対象物の理解度、発想力)等をもとに総合的に判断し評価します。</p> | | | | | | |
| 学 期 | 学 習 内 容 | | | 学 習 の ね ら い | | | |
| 1 学期 | 1. 美術史 2. デッサン ・鉛筆デッサン | | | <ul style="list-style-type: none"> ・古代から現代までの時代や風土の違いによる美術の流れを学習し、自らの制作活動に役立てます。 ・静物や、石膏を中心に鉛筆によるデッサンの表現方法を身につけます。 | | | |
| 2 学期 | 3. 着彩表現 ・静物着彩 4. 平面表現 ・平面構成 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・透明水彩絵の具による着彩技法を身につけます。 ・テーマに沿って、形・色の単純化の方法を不透明水彩絵の具を中心にした表現をしながら身につけます。 | | | |
| 3 学期 | 5. 空間表現 ・立体構成 6. 鑑賞 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿って、与えられた材料をから立体作品を制作する方法を身につけます。 ・インターネット等を使用して、過去、現在のさまざまな作品を鑑賞して、作家の創作の思いや表現方法を感じ取り、今後の制作に活かします。 | | | |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品の完成度を追及するには、授業中の集中力が必要です。 ・制作に必要な道具や材料を事前に準備する計画性が必要です。 ・課題作品の提出期限は必ず守ってください。 | | | | | | |

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

| | | | | | | | |
|------------|--|---|--|---|------|---|---|
| 教科・科目 | 工業（機械科）・機械工作 | 単位数 | 2 | 単位 | 履修学年 | 2 | 年 |
| 目 標 | <p>・機械技術の発達とその概要、各種の工業材料の性質について理解する。</p> <p>・工業材料の加工性や各種の加工法など機械工作の基礎的な知識について理解を深め、他の教科との関連性を深めながら、合理的な生産方法を実際に活用できる能力を身につける。</p> | | | | | | |
| 使用教材 | 【教科書】機械工作1（実教出版） | | | | | | |
| 評価の観点・評価規準 | <p>「関心・意欲・態度」</p> <p>機械工作に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組みとともに、創造的実践的な態度を身につけている。</p> | <p>「思考・判断」</p> <p>機械工作に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。</p> | <p>「技能・表現」</p> <p>機械工作の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。</p> | <p>「知識・理解」</p> <p>機械工作の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、現代社会における工業の意義や役割を理解している。</p> | | | |
| 評価方法 | <p>目標を踏まえ、機械工作に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、定期考査等をもとに総合的に判断し評価します。</p> | | | | | | |
| 学 期 | 学 習 内 容 | | | 学 習 の ね ら い | | | |
| 1 学期 | <p>機械材料とその加工性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 炭素鋼 2. 合金鋼 3. 鋳鉄 4. 非金属材料 | | | <p>・機械材料の性質と種類について、炭素鋼、合金鋼、鋳鉄、非鉄金属の特徴や用途について学習します。</p> | | | |
| 2 学期 | <p>鋳造・塑性加工</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 砂型鋳造法 2. 各種鋳造法 <p>鋳造・塑性加工</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 鋳造計画と管理 4. 鍛造とプレス加工 | | | <p>・鋳造の種類と各種鋳造法について、鋳造の分類とその内容について学習します。</p> <p>・塑性加工の種類と具体的方法について学習します。</p> <p>・鋳造の種類と各種鋳造法について、鋳造の分類とその内容について学習します。</p> <p>・塑性加工の種類と具体的方法について学習します。</p> | | | |
| 3 学期 | <p>溶接</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガス溶接とガス切断 2. アーク溶接とアーク切断 3. 抵抗溶接 4. その他の溶接 | | | <p>・ガス溶接、アーク溶接の理論とさまざまな溶接方法の内容について実用的な学習をします。</p> | | | |
| 学習上の留意点 | <p>・私たちの生活に不可欠な工業製品の高度化や品質の良さは、工業材料の進歩や発達に負うところが多くあります。その工業材料の基礎知識についての学習をします。関心意欲を持って授業に取り組んでください。</p> | | | | | | |

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

| | | | | | | | |
|----------------|--|---|---|---|------|---|---|
| 教科・科目 | 工業（電子機械科）・電子計測制御 | 単位数 | 2 | 単位 | 履修年次 | 2 | 年 |
| 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ・電子計測制御では、計測・制御の基本を理解する。 ・制御技術の理解に必要な不可欠な工学的な考え方を習得する。 | | | | | | |
| 使用教材 | 【教科書】電子計測制御（実教出版） | | | | | | |
| 評価の観点 ・評価規準 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 技能・表現 | 知識・理解 | | | |
| | 制御に興味や関心を持ち、意欲的にその原理を理解しようとする。さまざまな制御の問題を積極的にかつ正確に解こうとする。身近な事象に対しても探求しようとする。 | さまざまな制御の基礎的な知識や技術を適切に活用する。さまざまな制御について深く考えている。 | さまざまな制御についての目的を理解し、その手順を適切かつ正確に身に付け、図、プログラム等で表現できる。 | さまざまな電子応用技術について、その相互の関係を含めて十分に理解している。現代社会における電子技術の意義や役割を理解している。 | | | |
| 評価方法 | 目標を踏まえ、電子計測制御に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「表現・能力」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、定期考査等をもとに総合的に判断し評価します。 | | | | | | |
| 学 期 | 学 習 内 容 | | | 学 習 内 容 | | | |
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・計測と制御 ・計測およびデータの取り扱い ・シーケンス制御の概要 ・シーケンス制御用部品 ・シーケンス制御の基本と応用 ・自己保持回路 ・インタロック回路 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・計測と制御の基本的な考え方について理解します。 ・計測データを用いての有効数字を考慮した計算方法を学びます。 ・シーケンス制御の概要と制御部品について理解します。 ・シーケンス制御の考え方、シーケンス回路図やラダー図の書き方などを学習します。 | | | |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・順序回路 ・制御の応用例 ・プログラマブルコントローラ ・ラダー図 ・ニーモニック ・コンピュータ制御の実例 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・1学期の学習を踏まえて、シーケンス図をラダー図へ変換、さらにプログラムに変換する方法を学び、開発の流れを理解します。 ・コンピュータを使用した制御の考え方を実際に利用されている例から学習します。 | | | |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・フィードバック制御の概要 ・伝達関数の計算 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・フィードバック制御についての考え方も実例を交えながら学習します。 | | | |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・他の専門科目での知識が習得されていることを前提として授業を進めます。 ・実習で行われるPLCは、シーケンス制御の代表的な実例となるため、関連を含めしっかりと理解して学習する必要があります。 | | | | | | |

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

| | | | | | |
|----------------|--|---|--|---|-----|
| 教科・科目 | 工業（建築デザイン科）・環境工学基礎 | 単位数 | 2 単位 | 履修年次 | 2 年 |
| 目 標 | ・環境工学に関する基礎的な知識と技術を習得し、実際に活用する能力と態度を身につける。 | | | | |
| 使用教材 | 【教科書】環境工学基礎（実教出版） 【副教材】自主教材 | | | | |
| 評価の観点 ・評価規準 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 表現・能力 | 知識・理解 | |
| | 環境工学に関心を示し、その考え方や内容的に把握して取り組んでいるか。 | 環境工学に関する課題に対して、幅広く柔軟に考え、的確な判断、回答をすることができるか。 | 環境工学基礎で学習した内容を略図や文章で的確に表現できるか。 | 環境工学に関する知識を十分理解できたか。環境工学基礎の内容を他の教科に応用できる力がついたか。 | |
| 評価方法 | 目標を踏まえ、環境工学に対する「関心・意欲・態度」と「思考・判断」については日々の授業を中心に評価を行い、「技能・表現」と「知識・理解」は定期考査や提出物(ノート、プリント)を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査等を総合的に判断し評価します。 | | | | |
| 学 期 | 学 習 内 容 | | 学 習 の ね ら い | | |
| 1 学期 | 「環境工学基礎」を学ぶにあたって 1. 日本の環境政策 ・環境基本等と環境基本計画 ・循環型社会形成推進法と循環型社会形成推進基本計画 ・自然環境保全のための制度 ・環境アセスメント | | ・環境問題について理解し、それを解決するために様々な制度や取組があることを学習します。 ・建築計画上考慮すべき基本的な物理環境のうち、騒音・振動・臭気など建物内外に及ぼす影響と対策について学習します。 ・人間活動を持続可能なものにしていくために、環境工学基礎の学習内容をどのように活用していけばよいかについて学習します。 | | |
| 2 学期 | 2. 騒音・振動・臭気の現状と対策 ・感覚公害 ・騒音 ・振動 ・臭気 ・騒音の測定 3. 都市システムと環境 ・人間活動と環境問題 | | | | |
| 3 学期 | ・都市のエネルギー消費とヒートアイランド現象 ・被服材料による日射と気温の関係 4. 住環境と健康 ・住環境 ・地球環境時代の住まい | | | | |
| 学習上の留意点 | ・教科書や配布したプリントあるいはノートを、忘れずに準備してください。 ・普段の授業を大切にしてください。また、提出物は期日までに必ず提出してください。 | | | | |

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

| 教科・科目 | 農業（生物資源科）・農業情報処理 | | | 単位数 | 2 | 単位 | 履修年次 | 2 | 年 |
|------------|--|---------------------------------|---|---|---|----|------|---|---|
| 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ・高度情報化社会のしくみを理解して、情報処理、意思決定の過程を習得する。 ・情報の種類とその表現方法を学び、ハード・ソフト面の動作と概要を理解する。 ・農業のシステム化の実例を学び、森林や環境情報にもおよぶ活用技術を養う。 | | | | | | | | |
| 使用教材 | 【教科書】農業情報処理（実教出版） | | | | | | | | |
| 評価の観点・評価規準 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 技能・表現 | 知識・理解 | | | | | |
| | 農業や情報化に関心を持ち、積極的に取り組む実践的な態度を身につけている。 | 情報処理の手順や方法を工夫している。情報の整理、活用ができる。 | ハードウェア、ソフトウェアの選択、操作、活用ができています。情報結果をまとめ、発表することがができる。 | 情報に関する用語の知識、理解ができています。情報機器の機能の知識、理解がある。応用ソフトウェアについての知識・理解がある。 | | | | | |
| 評価方法 | 目標を踏まえ、「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「表現・能力」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物や課題の取り組み状況、定期考査、小テスト等を総合的に判断して評価します。また、学習活動への自己評価も考慮します。 | | | | | | | | |
| 学 期 | 学 習 内 容 | | | | 学 習 の ね ら い | | | | |
| 1 学期 | 第1章 生活と農業の情報化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちの生活と情報 ・ 情報化社会のモラルとセキュリティ ・ 農業を支える情報 第2章 情報の基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・ コンピューターと情報処理 ・ コンピューターの仕組みと利用 ・ 情報通信ネットワークのしくみ ・ 情報のセキュリティ管理 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高度情報化社会のしくみを理解し、私たちの生活との関わりについて考える。 ・ コンピューターの基本的なはたらきとそれらを構成する装置について理解する。 | | | | |
| 2 学期 | 第3章 コンピューターによる情報の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ ソフトウェアと情報の活用 ・ インターネットのしくみと利用 ・ 日本語ワードプロセッサの利用 ・ 表計算ソフトウェアの利用 ・ データベースソフトウェアの利用 ・ 画像・図形処理ソフトウェアの利用 ・ プレゼンテーションソフトウェアの利用 ・ Web ページの作成 ・ 学校紹介プロジェクト | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 入力、編集、出力、記録、再生について理解し、変換技術を習得する。 ・ 文書の入力、編集機能を学ぶ。 ・ 数値データ入力、表の作成、プレゼンテーション作成技術を習得して、「課題研究」などの成果発表に活かせるよう習熟をする。 | | | | |
| 3 学期 | 第4章 情報システム <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報システムの概要 ・ システム開発 ・ データベースシステム ・ リモートセンシングと地理情報システム ・ 計測と制御 第5章 農業情報および森林・環境情報の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業情報と伝達メディア ・ 農業の分野における情報の活用 ・ 農業のシステム化 ・ 森林情報の活用 ・ 環境情報の活用 第6章 農業学習と情報活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業学習とプロジェクト学習 ・ プロジェクト発表と情報発信 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 圃場現場における情報を収集、データベース化して今後の生産現場に還流を図る。簡易機器とシステムリンクさせる方法を研究する。 ・ 農業統計情報メッシュデータ閲覧システムなどを活用できる力を養う。また、地理情報システム（GIS）を活かして森林管理や経営計画を学ぶ。 ・ 持続的な改善ができたか否かをWebカメラなどを用い相互評価をする。 | | | | |
| 学習上の留意点 | 主体は日本語ワードプロセッサと表計算・プレゼンテーションソフトウェアの基本的な操作方法的の習得です。それらを軸に、これからの情報化社会に必要なスキルを身につけます。 | | | | | | | | |

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

| 教科・科目 | 農業（フードシステム科）・生物活用 | | 単位数 | 2 | 単位 | 履修年次 | 2 | 年 |
|----------------|---|---|--|--|----|------|---|---|
| 目 標 | ・園芸作物の活用に必要な知識と技術を習得し、それらの特性を活用した活動や園芸療法の特質を理解するとともに、生活の質の向上を図る能力と態度を養う。 | | | | | | | |
| 使用教材 | 【教科書】生物活用（農文協） | | | | | | | |
| 評価の観点 ・評価規準 | 関心・意欲・態度 園芸作物の活用に興味を持ち、人間生活の向上に向き合っていく意欲と態度を身につけている。 | 思考・判断 生物活用の意義と役割を正しく理解し、生物の特性を活用した活動に取り組む能力を身につけている。 | 技能・表現 生物の基本的な栽培方法を習得し、活用結果をレポートで表現する能力を身につけている。 | 知識・理解 生物の栽培に関する基礎的な知識を習得している。 | | | | |
| 評価方法 | 目標を踏まえ生物活用に対する「関心・意欲・態度」と「思考・判断」と「技能・表現」については、日々の授業を中心に評価を行う。「知識・理解」については試験をもとに評価する。具体的には、日々の授業態度、提出物、小テスト、栽培管理、製作品等をもとに、総合的に判断し評価する。 | | | | | | | |
| 学 期 | 学 習 内 容 | | | 学 習 の ね ら い | | | | |
| 一学期 | 生物活用の意義と役割 ・園芸作物と人間生活 園芸作物の栽培と活用 ・草花・野菜・ハーブの栽培と活用 | | | ・植物のある環境や農耕・園芸の暮らしが人の健康や生活の改善に活用されてきたことや、療法として医療・福祉分野などで活用される事例などを学習する。 ・園芸作物の体験的、継続的な栽培管理と利用に関する学習を通して、園芸作物のもつ特性と園芸活動が人に及ぼす効用など、園芸作物の活用に必要な基礎的・基本的な知識と技術を学習する。 | | | | |
| 二学期 | 園芸作物の栽培と活用 ・園芸デザインとその活用 生物を活用した療法 ・園芸療法 | | | ・園芸作物の体験的、継続的な栽培管理と利用に関する学習を通して、園芸デザイン活動が人に及ぼす効用など、園芸作物の活用に必要な基礎的・基本的な知識と技術を学習する。 ・生物を活用した交流活動、園芸の療法的活用の実際と効果について学習する。 | | | | |
| 三学期 | 生物活用の実際 ・対象者の理解と交流の技法 ・交流活動 ・療法的な活動 | | | ・対象者に関する知識や効果的な交流を行うための技法や、活動目標や活動計画の立て方、活動や対象者の評価方法などを学習する。 | | | | |
| 学習上の 留意点 | ・プリント教材を配布して授業を行う。 ・課題やレポートの提出は提出期限に遅れないように注意する。 ・園芸作物の栽培は後日放課後の観察が必要です。 | | | | | | | |

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

| | | | | | |
|-----------------|--|---|--|--|-----|
| 教科・科目 | 商業・ビジネス実習 | 単位数 | 2 単位 | 履修年次 | 2 年 |
| 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会や組織の仕組み、そこで働く者の姿勢や心構え、基礎的な事務処理能力などについて、秘書検定を題材にし、基本的な理論や技能を理解して身に付ける。 ・ ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行い、経済社会の発展に寄与する能力と態度を養う。 | | | | |
| 使用教材 | 【副教材】秘書検定3・2級 集中講義（早稲田教育出版） | | | | |
| 評価の観点 ・ 評価規準 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 技能・表現 | 知識・理解 | |
| | 企業の経営、経済活動に関する諸問題について関心をもち、その改善向上をめざして意欲的に取り組むとともにビジネスの諸活動に適切に対応する実践的な態度を身につけている。 | 企業の経営、経済活動に関する諸問題の解決をめざして自ら思考を深め、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。 | 企業の経営、経済活動に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動を適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。 | 企業の経営、経済活動に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、経済社会の一員としての心構えを理解している。 | |
| 評価方法 | 目標を踏まえ、ビジネス演習に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、定期考査等をもとに総合的に判断し評価します。 | | | | |
| 学 期 | 学 習 内 容 | 学 習 の ね ら い | | | |
| 1 学期 | 第1章 必要とされる資質 第2章 職務知識 第3章 一般知識 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 秘書の心得から、社会人としてまた、職業人としての基礎的な業務や日常の対応について広く学ぶことにより、仕事に対する姿勢を身につける。 ・ 企業における専門的な語句や社会常識について学ぶことにより、具体的に社会における対応を身につける。 | | | |
| 2 学期 | 第4章 マナー・接遇 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人として、コミュニケーションの取り方について学ぶ。 ・ 話し方や接遇の対応を学ぶことにより、実社会で戸惑わないように一般的マナーを身につける。 ・ 会議の種類やビジネス文書の作成、保管等の技能を学ぶことにより、書類や日程管理を身につける。 | | | |
| 3 学期 | 第5章 技能 1年間のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・ 秘書検定の受け方 ・ マークシート方式の答え方 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間学習したことを復習し、社会人としての基礎的な対応を身につける。 ・ 今までの学習したことを振り返り、その実力を秘書検定に反映させるとともに、社会人としての知識や対応の理解度を確認する。 | | | |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 服装を整え、マナーを守り礼儀正しく授業を受けましょう。 ・ この授業を通して立派な社会人になるためのビジネスマナーを身に付けましょう。 ・ 日々の授業を大切にして、秘書実務検定の取得を目指しましょう。 | | | | |

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

| | | | | | | | |
|-----------------|--|--|--|---|------|---|---|
| 教科・科目 | 福祉(介護福祉コース)・介護福祉基礎 | 単位数 | 2 | 単位 | 履修年次 | 2 | 年 |
| 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護を必要としている人の自立支援、尊厳の保持など、介護の意義と役割を理解する。 ・ 介護を適切に行う能力を身につける。 | | | | | | |
| 使用教材 | 【教科書】介護福祉基礎（実教出版） | | | | | | |
| 評価の観点 ・ 評価規準 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 技能・表現 | 知識・理解 | | | |
| | 介護に対して関心を持ち、福祉社会に向けた課題に意欲的に取り組むと共に、介護福祉に関する実践的な態度を身につけている。 | 介護を必要とする人の尊厳を考え、自立に向けた介護について、介護従事者として思考を深めている。 介護従事者としての倫理を理解し、適切な判断ができる。 | 介護を必要とする人の生活と介護の役割について、自らの考えを表現することができる。 介護の担い手として、ふさわしい態度が表現できる。 | 介護を必要とする人の生活と介護の意義や役割について理解している。 介護の担い手を取り巻く状況や倫理、役割について理解している。 | | | |
| 評価方法 | 目標を踏まえ、「関心・意欲・態度」と「思考・判断」、「技能・表現」、については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・理解」については試験をもとに評価します。具体的には、日々の授業態度、提出物、考査等をもとに、総合的に判断し評価します。 | | | | | | |
| 学 期 | 学 習 内 容 | | | 学 習 の ね ら い | | | |
| 1 学期 | 介護の意義と役割 ・ 尊厳を支える介護 ・ 介護従事者の理念 | | | ・ 介護の意義と役割について学びます。 ・ ノーマライゼーションについて理解し、自己決定、個別化の介護について学びます。 ・ 尊厳の保持、プライバシーの保護、自立支援について理解し、介護従事者として必要な倫理について学びます。 | | | |
| 2 学期 | 介護を必要とする人の理解と介護 ・ 高齢者の生活と介護 ・ 障害者の生活と支援 | | | ・ 高齢者の生活や特徴について理解し、「移動」「食事」「排せつ」「着脱」「入浴」に関する介護の基本を学びます。 ・ 障害についての考え方や生活上の課題などを理解し、障害者を支えるための介護を学びます。 | | | |
| 3 学期 | 介護を必要とする人の生活環境 ・ 介護の環境 ・ 自立に向けた介護 | | | ・ 介護を必要とする人と家族や地域など生活環境について学びます。 ・ 自立の概念と意義や役割を理解し、自己決定や個別化など自立に向けた介護を学びます。 | | | |
| 学 習 上 の 留 意 点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定のシューズが必要です。 ・ メンバー同士で協力し合える関係作りをしていきましょう。 ・ どのような人でも快く介護ができる優しい心を育てていきましょう。 ・ 介護技術と介護知識がつながるようにしましょう。 | | | | | | |

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

| 教科・科目 | 福祉（生活福祉コース）・福祉住環境 | 単位数 | 2 単位 | 履修年次 | 2 年 |
|----------------|--|--|---|--|-----|
| 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者にわたる全世帯を対象にした街づくりや住環境整備についての知識を身に付ける。 ・法律・介護技術・福祉用具などの専門的知識・技術を身に付ける。 ・安全・安心・快適な住まいの整備ができる。 ・福祉住環境コーディネーター検定試験3級に合格する。 | | | | |
| 使用教材 | 【副教材】自作教材（プリントなど） | | | | |
| 評価の観点 ・評価規準 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 技能・表現 | 知識・理解 | |
| | 福祉住環境に関心を持ち、知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組んでいる。福祉住環境に関する情報を適切に収集、処理し活用する実践的な態度を身につけている。 | 福祉住環境に関する諸問題の解決を目指し、自分の考えを持ち、適切に判断する能力を身につけている。 | 福祉住環境に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。自分の考えや意見を的確に表現することができる。 | 福祉住環境に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。住環境整備における福祉の視点を理解している。 | |
| 評価方法 | 目標を踏まえ、福祉住環境に対する「関心・意欲・態度」と「思考・判断」、「技能・表現」、については、日々の授業を中心に評価を行う。「知識・理解」については試験をもとに評価する。具体的には、日々の授業態度、提出物、考査等をもとに、総合的に判断し評価する。 | | | | |
| 学 期 | 学 習 内 容 | 学 習 の ね ら い | | | |
| 1 学期 | 暮らしやすい生活環境を目指して <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化社会・共生社会 ・福祉住環境の重要性・必要性 ・在宅生活の維持とケアサービス バリアフリーとユニバーサルデザイン ・バリアフリーとユニバーサルデザインを考える ・生活を支えるさまざまな用具 | <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化が社会に及ぼす影響について学習する。 ・住環境の基礎について学習し、安心・安全な住まいの知識を身につける。 ・介護保険の仕組みや意義・役割について学習する。 ・バリアフリーとユニバーサルデザインの考え方を学習し、建築に必要な知識を身につける。 ・福祉用具の種類、使用方法について学習し、適切な使用ができる知識・技術を身につける。 | | | |
| 2 学期 | 健康と自立を目指して <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の健康と自立 安心・安全・快適な住まい ・住まいの整備のための基本技術 ・生活行為別に見る安全・安心・快適な住まい 安心できる住生活とまちづくり ・ライフスタイルの多様化と住まい ・安心できる住生活 ・安心して暮らせるまちづくり | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障害者の心身の状態、特性について学び、一人ひとりに合った住環境整備ができるようになる。 ・段差や幅・スペースなどについて学習し、介護をするのにより良い住環境を整備できる知識を身につける。 ・家族構成や暮らしの変化について学習する。 ・高齢者が安心して暮らせる住宅について学習する。 ・まちづくりについて学習し、地域福祉に参加・協力できる力を養う。 | | | |
| 3 学期 | よりよい住環境を目指して <ul style="list-style-type: none"> ・家族の健康、安全を考えた住まい ・快適な住環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な年齢や性別などに配慮した住環境について学習する。 ・健康で快適な室内空間について考える力を養う。 | | | |
| 学習上の留意点 | | | | | |